

# やくわえ

第六号

## 日の丸を高く掲げよう!

二月十一日、橿原神宮に於て勅使参向のもとに紀元祭が厳かに斉行され、神社本庁統理を始め明治神宮、春日大社、出雲大社の宮司山神社関係者、その他一般市民ら約四千名の参列者が、内庭をぎっしり埋めつくしたと報じられている。

東京に於ても、建国記念の日奉祝実行委員会によって、日比谷公会堂に於て建国記念日奉祝東京大会式典が行なわれ、つづいて「建国を想う夕べ」が催された。われわれ神道青年会に於ても、午前赤坂日枝神社を出発した奉祝自動車パレードよりこれに参加した。当日は長蛇の列が会場をとりまき、午後六時の開門と同時に超満員となり、そのほぼ九割が若い男女の青年層であった。

国歌の斉唱、神武天皇筑都の詔から始まる式典につづいて、黛敏郎氏の記念講演が行われ氏独得の術術とその内容の豊かさに会場に居る人たちは耳をそばだて、引き入れられるように聞き入っていた。

こうした建国記念日のみならず、国家的行事による伝統的祝日に対して、心からそれを祝い、軒先には日の丸を掲げようという姿勢が、今の日本人にどれだけ存在するだろうか。ただ、学校や職場がお休みになるというだけであって、何の為の祝日であるかとの認識は全く薄らいでしまっている。この様な現今の世相の中にあつて、われわれ青年神職はその立場に立って、周囲にいる人たちからそれに対する正しい理解と認識を持たせるよう働きかけなければならぬと考える。

こうした認識が、ひいては日本を日本として、日本人を日本人として認識させ、国を愛するという心を育てて行くことでもある。そうやって始めて、今の混乱の時代から新しい日本へと生れ変わることも出来るのではないだろうか。

(写真上 橿原神宮―橿原神宮庁より提供)

## 本年度活動の回顧と次年度の方針について

会長 北 川 正 保

昨年の定期総会に於いて、大任をお引受けしてより早や一年、またたく間に過ぎ去ってしまった。

この間、何とかやってこられたのは、役員、委員を始め会員諸氏の協力、先輩諸兄の心からの指導、特に神社庁の心暖まるご援助に他ならないと感謝申上げる次第です。

今、ここに新年度を迎えるにあたり、過去一年間の反省と共に、四十八年度の施策の一端を述べたいと思います。

本会の第一テーマ「第六十回神宮式年遷宮奉賛活動」についてはすでに皆様ご承知の如く、来たる八月十八日に行われるお白石持ち奉仕には、神青協、氏青協と共に一日神領民として参加する事は決意いたしておりますが、日本人の心のふるさとである神宮のこの盛儀に都神青会として何か独自の奉賛活動をすべく、再三にわたる神宮当局と打合せを重ねて参りました、その結果お白石持ち奉仕

が行なわれます八月に先立って、七月末にお白石洗い奉仕を行う事を決定致しました。

新年度に於いては特にこの第一テーマの推進を主眼として行なう方針ですが、この第六十回式年遷宮がより盛大に、より有意義に斎行される事を会員諸氏と共に念願する次第です。

第二テーマ「過密過疎化した都会における神社と氏子とのつながりについて」は「神社と氏子」特に青少年対策に、又「都市に於ける祭り」等、二年の間に資料に纏めあげんとするものであるが、これ等は我々にとって氏子を理解する上にも大切な事ではないだろうか。本会では、既に大阪・堺市の団地による二十万都市計画にもとずき、現在ほとんどの氏子が団地である多治速姫神社におもむき、その団地対策、氏子対策について調査を行った。又、新年度の方針のうちこの問題を具体化し、第一段階として都内各社に対するア

ンケートをつのり、この運動を進めて行きたいと思えます。

次に、各部の事業については、四十七年度予算編成にあたり神青協会費の増額を始め、第一、第二テーマの推進等各部活動の充実、諸経費の高騰等、難問題をかかえ予算配分に苦慮したわけである。

役員の中には、会費改正の声もでたが、一同一致協力して「何とか一年間実績を上げてから、会費の改正を行おうではないか」という結論に達したのであった。其の結果、役員委員を始め、会員諸氏の一致協力と、神社庁を始め先輩諸兄の暖かいご指導のもとに何か切り抜けて来た訳である。

今月開催された臨時総会に於いては、此の様な我々の熱意が汲み取られ、会費増額の承認がえられた。又、神社庁助成金においても拾万円を増額が理事会に於いて承認された。この事は予算面のみならず、我々に新たな勇氣とエネルギーを与えられた感が有る、と同時に其の責任の重大さを思わねばならない。会員諸氏におかれまして、この点を良くご理解いただき、今後共更に斯道の為に心からのご協力を願うものであります。

教養活動に於いては禊祓成会、教養講座等を中心とした活動を行って来た。特に禊祓成会に於いては例年行われている武州御嶽の夏期練成会に加えて、本年三月明治

神宮禊祓成道場に於いて初めての冬期練成会を行い、熱意あふれる若手会員の参加を得て、非常に好評であった。教養講座は新しい趣向を凝らし、会員の中より発題者をつのり、相互のディスカッションを行った。今後もこの様な「場」を基にして会員の向上と、対外的にも自信の有る意見の交換の出来る様、相互研修を行って行きたい

と思う。又、神社庁教化部と共催により、週一回(毎木曜日)雅楽の講習会を行って来たが、新年度の総会に於いては、日頃練習の成果ともいべき雅楽の合奏をきく事が出来るだろう。

教化活動に於いては、我々青年神職として、先づ第一に行わなければならない青少年育成を重要課題として取り上げ、隔月に都氏青連絡会の会合を持ち、各社お互いの情報交換、相互親睦を図りつつすぐ役に立つ資料集として「氏子青年会資料」を発刊し、全神職に配布したことは、衆知のことであ

ります。新年度にあたっては、氏青問題、BS問題等を更に推し進めるため神社庁と良く連携を保ちながら、展開して行きたいと思ひます。国旗掲揚推進運動については自動車パレード、街頭におけるマッチ配り等を行った。国旗掲揚推進自動車パレードは新しい試みとして参加車輛を二手に分け、同時に広範囲に、又細部に亘り啓蒙運動を行うことができた。特に街頭マッチ配りは此の運動に民間企業の賛同を得て、建国記念日奉祝の宣揚により大きな成果を上げ得た事は特筆すべき事でありませぬ。

渉外部については、あえて会則を変更し渉外活動一本にしぼった訳であるが、神青協とのパイプ役として、又北方領土返還国民運動に参加等、積極的に行つて来た。特に小笠原大神山神社御復興に際しては、本会よりも代表団を送り神社庁と共にこれをまっとうする事が出来た。其の際、御復興の記念碑を建立の計画を進めた所、会員はもとより、北多摩青年会のむらさき会、神青協、石川県神道青年会、神奈川県神道青年会等より各々多額の奉賛が寄せられた。この事業がいかに意義あるものとし

て全国有志の賛同を得た事は大きな感激として心に残つた次第である。新年度に際しては、四十七年度の経験をもとにして神青協とのパイプ役として、又北方領土返還国民運動を強く推し進めて行きたいと思ふ。

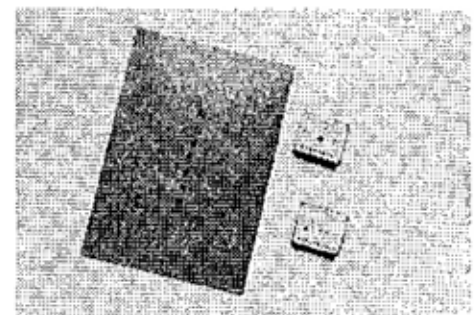
広報部については定期会報(やくわえ)の他に、先に述べた小笠原大神山神社御復興の奉仕活動の特集号として発刊し、大神山神社の御神徳の発揚とその啓蒙の役をはたし得たと思ふ。新年度に於いてはこのような定期会報と共に、間発的な随時会報を発刊し、更に会員相互の連絡のかたとして行きたいと思ふ。

事業部は懇親旅行会、ボーリング大会、ドライブ家族懇親会、釣大会等行つて来たわけであるが、特にボーリング大会に於いては大鳥居庁長の始球式という新形式を取り上げ、好評を博した。又家族懇親ドライブ旅行は東神会(会長 齊藤英雄氏)の協力を得て、盛大に且つ大いに家族同志親睦の目的に達する事ができたのである。新年度に於いては更に特殊神事見学等を折り込んで、会員相互の親睦をはかつてゆきたいと思ひます。

この様な運動を通じて、俗に言う「良く学び、良く遊べ」の言葉が有る様に、向上と融和を計つて行きたいと思ひます。

以上が、昭和四十七年度の事業経過と新年度に対する簡単な方針を示したわけであるが、今迄申し述べた一つ一つが、黙々と努力する委員一人一人の成果であり、会長としてただただ頭の下がる思いであります。

今後共、先輩諸兄の暖かいご指導を得て、会員各自が神道青年会の重要性を自覚し、それに対する愛情をもってしっかりと手をつないで行こうではありませんか。



○ 本年度 国旗掲揚推進運動の一環として氏青の参加を得て行われた街頭におけるマッチ配りに際し、城南信用金庫よりマッチの製作費として多額の金円を御寄附戴き、多大の成果を挙げることができました。(写真右上)

○ みそぎ修練会は武州御嶽山において盛会に……(写真左上)



会務報告

読売ホール。

五月十五日

沖繩本土復帰記念式典(天皇・皇后両陛下御臨席)に出席。於日本武道館。

五月十七日

役員会・委員会開催。於・神社本庁。

五月十八日

親善野球開催。「神青」対「むらさき会」、3対4で負。於・府中市営グラウンド。

五月二十四日

臨時總會開催。活動テーマ及び事業計画設定。於・神社本庁。

五月二十五日

大田区氏子青年連絡会に出席。於・千束八幡神社。

五月二十九日・三十日

神道青年全国協議会合同役員会に出席。於・神社本庁。

六月六日

神社本庁設立二十五周年記念大会参加奉仕。於・明治神宮会館。

六月十二日

沖繩・東京両神社本庁主催の沖繩戦没者慰霊奉仕団に参加。於・沖繩護国神社。

六月十四日

教養講座開催(神社と自治会の

七月十二日

神道青年全国協議会の役員研修会に出席。於・全国神社会館。

七月十三日

神道青年全国協議会役員会に出席。於・神社本庁。

七月十八・十九日

関東地区神道青年会総会に出席。於・群馬県赤城神社。

七月十九・二十日

みそぎ修練会開催。於・武州御嶽山。

七月二十七日

第十四回東京都神道人野球大会に参加。第一戦で敗退。むらさき会優勝。於・北多摩是政グラウンド。

八月四日

委員会開催。於・神社本庁。

八月十一日

親善野球開催。「神青」対「氏青(杉並氷川神社)」、3対0で勝。於・神宮球場。

大神山神社遷座祭齋行について

の委員会に出席。於・神社本庁。

八月十七日

家族慰安ドライブの集い共催。富士浅間神社参拝。東神ドライブクラブ共催。

八月二十八日

「日本を考える会」に出席。於

つながりについて)。於・神社本庁。

六月十七日

親善野球開催。「神青」対「むらさき会」、4対3で勝。於・府中市営グラウンド。

六月十八日

大田区千束八幡神社氏子青年会結成大会に出席。於・八幡神社。

六月十九日

都氏子青年連絡会に出席。於・花園神社。

六月二十一日

懇親旅行会(下田御用邸参観)。於・下田ビューホテル。

六月二十三日

殉国沖繩学徒顕彰二十七年祭並びに沖繩返還奉告祭に出席。於・靖国神社。

六月二十七日

役員会・委員会開催。於・神社本庁。

七月七日

明治天皇六十年祭(天皇・皇后両陛下並びに皇太子同妃両殿下奉送迎)に会長参列。於・明治神宮。

七月九日

全国氏子青年協議会第十回定期総会に出席。於・熱田神宮。

関東地区神社庁親善野球大会に参加。第一戦で敗退。神奈川県が優勝。於・栃木県宇都宮市営球場。

九月七日

雅楽講習会開催(毎週木曜日稽古)。於・神社庁。

九月十五日

宮崎県神道青年会北方領土返還キャンペーン隊へ協賛金贈呈(神社庁並びに本会より)。

九月二十日

委員会開催。於・神社庁。「やくわえ」第五号発行。

九月二十四日

神道青年全国協議会中央研修会に出席。於・岡山県護国神社。

十月六日

第四回ボーリング大会開催。於・大崎グリーンボウル。

十月十三日

委員会開催。於・神社庁。教養講座開催(神道教化についての考え)。於・神社庁。

十月十八日

都氏子青年連絡会総会に出席。於・浅間神社。

大神山神社御復興奉仕団先発に参加。

十月二十日

神社庁秋季大祭に参列。

ハゼ釣り大会開催。於・浦安沖

十月二十五日

大神山神社御復興奉仕団後発にも参加。正・副会長加わる。

十一月一日

大神山神社御復興奉仕団帰郷。

十一月七日

役員会開催。於・御嶽神社。

十一月十日

委員会開催。於・神社庁。教養講座開催(戦後の教育と神社)。於・神社庁。

十一月二十一日

石川県神道青年会から大神山神社へ寄せられた浄財に対する感謝状を伝達。於・石川県神社庁。

十二月四日

忘年会開催。於・熱海「玉の井」神道青年全国協議会役員会に出席。於・神社本庁。

十二月九日

都氏子青年連絡会例会・忘年会に出席。於・日枝神社。

十二月十四日

役員会開催。於・神社庁。

一月十一日

新年会開催。於・明神会館。「やくわえ」特集号発行。

一月十三日

北多摩・神道青年会(むらさき会)の新年会に出席。於・大國魂神社。

一月二十七日

北方領土復帰促進国民大会に出席。於・日比谷公会堂。

委員会開催。於・神社庁。

二月十日

「国旗掲揚推進運動」のマッチ

二月十一日

「建国記念の日」の奉祝東京大会に参加。於・日比谷公会堂。

二月十二日

神道婦人会新年互礼会に出席。於・熊野会館。

二月十八日

全国氏子青年連絡会代表者会議に出席。於・明治神宮会館。

都氏子青年連絡会と本会の連絡会開催。於・氷川神社。

二月二十六日

第二テーマ推進小委員会開催。委員会開催。於・神社庁。

三月五日

役員会開催。於・神社庁。

三月十日

役員会開催。於・神社庁。みそぎ修練会開催。於・明治神

三月十二・十三日

宮会館。

三月十三日

臨時総会開催。於・神社庁。



三月十八日

日の丸パレード開催。城東方面神道青年全国協議会在京役員と本会役員との懇談会。於・神田神社会館。

三月二十二日

神道青年全国協議会役員会開催。於・神社本庁。

三月二十七日

第五回ボーリング大会開催。於・湯島ホワイトボウル。

三月三十一日

「やくわえ」第六号発行。

## 第二テーマ

## 推進にあたって

副会長 大鳥居 信史

現会長の就任に当り、本会活動の柱として、「第六十回神宮式年遷宮に対する協賛運動」並びに「過密過疎化した都会における神社と氏子とのつながりについて」の二大テーマを取り上げ、此の内第二テーマについて、小生に担当する様仰せがあった。その後、テーマのあまりにも重大かつ膨大である事を感じ、憂慮して居ったのであるが、昨秋、正副会長以下山本議長・滝部長にて過密化現象の典型でもある、大阪府堺市の一大団地内に鎮座する某神社を訪ね、種々意見の交換を計る機会を得た。思うに、此の様な地域社会に於ける神社は、凡ゆる面からの積極的な住民呼び掛けを行い、接触を計って行かなければならない事を痛感すると共に、地域の特徴を掴んだ活動を見いださなければならぬことである。

従って、東京の如き多種多様な地域性を持った社会に於ては、広く会員相互の協力を得て、調査活動を推進して参らなくてはならない。先般、部長会を開き協議の結果、広くアンケート調査を行うことを決め、その内容検討に入ったのである。先づ記名式アンケート調査ということにも障害があったが、その目的からして已む無きとし、姿勢を正し、各社の資料を尊重し常に神道発展並びに、氏子運営の参考に供する調査表である様、努力することにて結着したい。

更には、調査表蒐集の結果、現今の神社の実態を正しく認識し、流動する社会の中であって過密過疎の地域が急増し、神社の立地条件も変動中である為、先づ各社の置かれた環境を考え、その上で真剣に探究して参らなければならぬ。従い、調査内容も各社の置かれる地域性を主体に、神社の公共的役割、年中行事、諸団体、諸事業、自然環境、青少年育成の有り方等々、今後の神社と氏子とのつながりを一層より良き方向へと、各社の責務に於て、展開すべき時参考に供する資料となる様、検討努力致して参りたい。

因に、本テーマ推進の活動予定は、早々、趣意書並びにアンケート用紙の作成を行い、六月中旬に各社に配り、七月中に資料蒐集を終え、本年中に資料分析を行い、来春には報告書を作成配布という予定にてこの事業を推進致して参りたい。

今後共、会員諸兄の一層の奮起と一致協力を賜わります様念じて居る次第です。

## この一年を

## 省りみて

事業部長 清水 司

東京都神道青年会則第四条に「本会は会員相互の研鑽と親睦をはかり、神社神道の興隆を期す」とその目的が記されている。又北川会長が就任に当って「若い力を結集しよう」とうたい、その中に神道青年会組織の充実と運動の円滑を期するために会員相互の親睦を計りながら……と訴えている。

我が事業部担当も会員多数の参加を念願に、事業計画のもとに会員相互の懇親と視察研修を兼ね下田御用邸見学旅行に始り三月のボートリング大会を以って本年度の行

事は終了致しました。その間実施に当って、認識不足と未熟なためお手数をかけ御迷惑をかけたことをお詫び申し上げます。御指導御協賛下さいました諸先輩を始め会員の皆様にお礼申し上げます。

さて折返し点に来て事業部の立場を考えてみるに、事業部の役割は前記したようにいわゆる会員相互の親睦活動にあると思う。親睦活動としての懇親行事は神道青年会の充実と和を保つていく上で欠かせないものであり、その意味するところ非常に大事な要素が含まれていると思う。

我々青年神道人は神社神道の推進力であり、やがて次代をになう責任者になるのです。それ故に我々は互に切磋琢磨し苦楽を共にし互に手を取り合って神社神道の興隆を期す大目的の為に精進しなければならぬ。その為事業部の行事は、個々において自己の研鑽と心のゆとりと本当の意味での友情に、組織においては会員相互の信頼と会の和と充実にも少しでも役立つことを願いつつ、部の事業を進めてまいりたいと思えます。会員諸兄の多数の参加と御指導御鞭撻を願い上げる次第です。

お白石持奉仕を迎えて

東京都氏子青年連絡会

会長 野口三郎

昨年十月、斯道の為誰かやらねばとの思いから、任期中半にして退任された三木前会長の後を継いで、都連の会長という大任をおおせつかり、神青会の皆様と各会同志の皆様方の後押しによって、大過なく半年以上過ぎてしまいました。

都連が誕生した頃は代表者のみの集りであった本会も、講演会、研修会を通じての各会の情報交換又親睦の積み重ねにより、毎回三十五名以上の出席者が顔を揃え、活発な意見の交換とムードの良い進行を見ているわけでございませす。反面、まだ神青会のお世話にならなければ個々の単位会だけで勢いっばいといった現状ではないでしょうか。

昭和四十八年度は来るべき、第六十回伊勢神宮式年遷宮祭が斎行される意義深い年であります。都連におきましてもお白石持奉仕につきましては毎回話し合い、全面協力という事で、すでに氏青協の方へ参加者一四三名を申し込んであります。

方へ参加者一四三名を申し込んであります。

神宮奉賛の誠を捧げ、私たちは一日神領民として参加するわけですが、そのお白石を神域まで奉曳する車、その曳綱をとる揃の衣装威勢のいい木遣の音が今から祭りの風景となつて頭の中に浮かんでまいります。

二十一年に一度、氏子青年ならでの奉仕の機会に恵まれたことを誇りとし、さらにこれを契機に各会の飛躍的な運動の展開を旨とし翌十九日には氏青協十周年記念大会として、そのまま移行するわけですが、伊勢の盛り上りを逃すことなく、我々の同志と手をつなぎ合せて、「心のふるさと」(鎮守様)を中心にしても良い郷土社会の発展に寄与したいと考えております。本会同志がどうか一日も早く都内各区全域に、一社でも良い二社でもいいから、新氏青の結成をみてその各地に燃え広がった小さな灯が大きな灰となつて誕生する様祈念する次第です。

何分共に都連はまだまだ数少ない単位会の集りでございます。今後共、会員各位、先輩諸兄の叱咤激励をお願い申し上げます。

氏青を育てよう!

教化部長 川合玄絃

一昨年神社本庁におきまして、創立二十五周年を迎え「全国神社青年会議」を主催し、本格的に青少年の教化育成に着手、具体化しようとしております。それはとりも直さず、これを契機に神社界が実践活動の分野で、青少年対策を強化し、拡大、発展することを目的としているわけです。

本年は氏青協十周年記念にあたり、又伊勢神宮第六十回式年遷宮祭が斎行される意義深い年でもあります。

教化部が窓口となつて隔月に行っている都氏青連絡会もこれを契機に、新氏青の結成への近隣神社へのオルグ活動、各種会合を通じての既成氏青との交流により親睦を深めて行きたいと考えています。

しかし、氏青はまず神職が結成する気になる事、特に若手の神職が同世代の氏子青少年に何らかの形で呼びかけ、神社に関心と信仰と協力を持たせる事が肝要ではないでしょうか。

昨年、神青会、都氏青連絡会に

よつて、新氏青を結成するに当つて必要な趣意書、規約、活動方針事業計画等をもり込んだ氏青結成資料のヒナ型を作成し、都全神職関係方面等に配布致しました。又神青と氏青との融和親睦と精神向上を図る為、日の丸パレード、国旗掲揚推進マッチ配り、ボーリング大会等数多くの事業に参加され成果を挙げております。

神青の手を離れ、都氏青連絡会から都氏青会という協議体に発展する時機に來ているのではないかとこの思いも致しますが、まだまだ都内で十三社という数少ない会組織で、その大半が単位会の活動で勢いっばいというのが現状で、又将来協議体に発展するにしても、神青と氏青とは表裏一体となつて活動を続けてゆくのが本当でしょう。

どうか今後共、会員各位に於かれましては、今一度氏青活動の意義と必要性を真剣に考え、神社と氏子青少年のつながりを重視し、離れゆく青少年を只時代の流れのせいにして諦めてしまふのではなく現代に即応した対策を執りつつ、強力に推進してゆく事こそ急務ではないでしょうか。

「団地神社」調査随行記

議長 山本雅道

本会第二テーマ「鎮守の森と現代」の一事例として団地神社の実体を調査しようと、昨秋神青協中央研修会（岡山県護国神社）の帰途、会長副会長等と大阪堺市の泉北ニュータウンのど真中にある「多治速比売神社」を訪問した。

泉北ニュータウンは和泉市、河内長野市に隣接し、遠く、堺・泉北臨海工業地帯を望む田園風景を残す丘陵地帯にあり、千里ニュータウン、多摩ニュータウンに匹敵する一大団地である。早朝南海電車に揺られて泉ヶ丘駅を下車する。綿密な都市計画で建設された斬新な街を見て一同驚嘆した。駅前でタクシーに乗り宮山台にある神社に向った。運転手は神社の存在を知らず、我々が持参した地図を頼りにやっと、とある丘陵の下で降り、徒歩で目的の神社迄坂を昇った。途中、街は未だ建設中の個所がかなりあり、いやが上にも新興都市の印象を強く与えられた。我々の先入観から、これから訪れる神社はきっと団地の谷間に僅かに

鎮座する社であるに相違ないものと想像した。所が、着いてみると約七千坪の神域を持つ拝殿、社務所、参集殿等が完備した壮麗華麗な神社だったのでびっくり仰天した。正式参拝後、参集殿で吉田宮司と会見する。話によると同社は神域の用地売却により、その費用で昭和四拾年から三年に亘り、大改築をして今日に至ったということであった。高台に位置するので

周囲の団地が一望にみられ、近代都市の人工美と神社神域の自然美が調和しているように見えた。

さて、団地に対する教化方法の間に對し、全ての接触は団地委員会を通じて行われ、個別訪問の形式でお礼や神棚の設置の説得もスムーズに行われていないらしい。神社側としては新聞のちらし、団地機関誌の利用、ポスターによる祭り、七五三、結婚式等の宣伝で年々参拝者は増えているとのことだった。欲を言えば、団地の人達との対話、神社に対する生の声を聞きたかったという事と、経済的に恵まれた神社のせい、団地対策に何か一つ押しが足りないような気がして、同社を後にした。

これからは陽気も良くなり、外へ出て活潑に活動出来る時期でもあります。われわれ青年神職にとっては教化活動を進める上で絶好のときでもあります。

そして、本年は伊勢神宮式年遷宮の執行される良き年でもあり、これを好機に存分に動きまわりたいと会長も考えているようです。



東京都神道青年会も北川会長の下に早や一年を経過した。

第一、第二テーマ及各部の事業もそれぞれ進められ、和を旨とする神青活動も順調に二年目を迎えるようとしています。

この「やくわえ」も昭和四十七年度には三号——第六号、特集号今号——を発行致しましたが、やっとうとうにか体面を保っている程度で——多くの方々より御意見を頂戴して一号毎に紙面を充実させて来た積りではあるが——満足戴けるものであるかどうか……。

今号は年度末ぎりぎりになっての発行ゆえ、原稿をお寄せ下さった方々にとっても多事多忙な時期でもあり、大変御苦勞であったことと思ひます。

これからの「やくわえ」を充実させて行く上にも、会員各位の御意見・御感想を是非お寄せ下さると共に、御投稿を歓迎致します。

お知らせ

昭和四十八年度に於いて、広報部では「やくわえ」の他に不定期臨時会報（紙名未定）の発行を予定致しております。

各役員、各区委員はどの様な事——例えば慶弔に関する事、その他トピックスのようなもの——でも結構ですので、どうか情報の提供をお願い申し上げます。担当者倉光（足立）千村（台東）の両君ですので、是非御協力を……。

昭和四十八年三月三十一日  
 東京都神道青年会  
 東京都港区元赤坂二二二一三  
 東京都神社庁内  
 電話（408）二三六一・九二七七